令和６年１月 22 日
富山商工会議所

景気動向調査の概要 【2023 年 10～12 月】

緩やかな回復基調は続くも、半数以上が「足踏み状態」と回答

～新型コロナも落ち着き人流が回復、観光・宿泊・飲食業界を中心に明るい動き～

景気の現況は「足踏み状態」（53.6%）との回答が半数（前期比 10.7 ポイント増）となるが、「緩やかに回復している」（35.7%）、「回復している」（3.6%）との回答も、前回同様に約４割を占める結果となった。

今期（2023 年 10～12 月期）の業況判断 DI は 32.1（前期比 17.8 ポイント増）となり、２期連続で改善したほか、来期（2024 年 1～3 月期）の見通しについても、DI が 21.4（前期比 17.8 ポイント増）と大幅な改善が見られるなど、回復基調が続く結果となった。

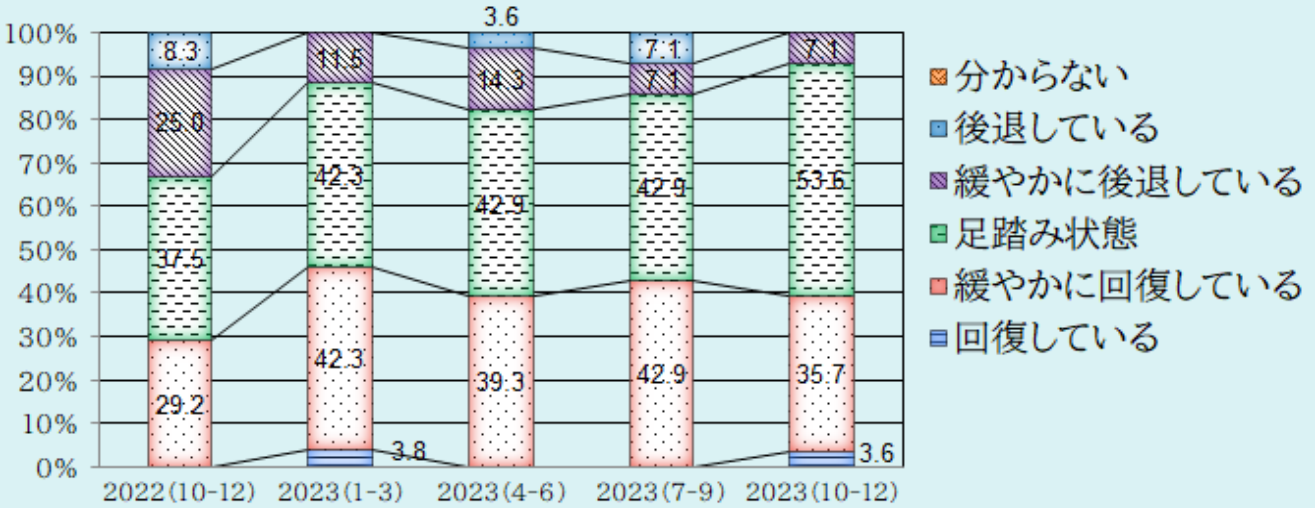
製造業では半導体不足が解消、自動車の生産が回復したことで、自動車関連産業を中心に好調が続いたほか、医薬品業界ではジェネリック医薬品の需要が堅調に推移したことで、原薬販売などが好調となった。

また、昨年５月に新型コロナウイルス感染症が５類へ移行、人流が回復したことで、個人のレジャー、教育旅行に加え、法人向け旅行等も回復するなど、観光・宿泊・飲食業界などを中心に明るい動きが見られた。

一方、人口減少やインフレに伴う実質賃金の減少などから新設住宅着工戸数が低迷、住宅関連産業を中心に影響を受けたほか、物価高等から消費者の買え控えの影響などを受ける業界も見られた。

新型コロナウイルスの影響も落ち着き、また、北陸新幹線金沢・敦賀駅間の開業を控え、北陸地域の更なる活性化が期待される 2024 年であったが、１月１日に発生した「令和６年能登半島地震」が石川・富山を中心に大きな被害をもたらしており、今後の北陸経済への影響が懸念される。

1.景気の現況について（四半期ごとの推移）



2.前期との比較と来期の見通し

		2022 年 10-12 月期	2023 年1-3月期	2023 年 4-6 月期	2023 年 7-9 月期	2023 年 10-12 月期	2024 年 1-3月期
前期比	好転	33.3	34.6	32.1	35.7	50.0	-
	不変	37.5	46.2	28.6	42.9	32.1	-
	悪化	29.2	19.2	39.3	21.4	17.9	-
	DI	4.1	15.4	△7.2	14.3	32.1	-
来期の見通し	好転	40.0	25.0	26.9	25.0	28.6	35.7
	不変	40.0	33.3	65.4	64.3	46.4	50.0
	悪化	20.0	41.7	7.7	10.7	25.0	14.3
	DI	20.0	△ 16.7	19.2	14.3	3.6	21.4

＜実施要領＞
1. 調 査 期 間　2023 年 12 月 19 日～12 月 28 日　　2. 調 査 対 象　当所景気モニター企業　30 社
3. 調 査 方 法　調査票を郵送しＦＡＸおよび Google Form で回収
4. 有効回答数　28 社（回収率 93.3%）